研 究 主 題

自己の存在を実感し，共に認め合う子どもの育成をめざして
～互いの価値観を認め合って尊重し合える生き方～

１　設定理由

安房支部女性部では，これまで長年にわたり「両性の自立と平等をめざす教育」に取り組んできた。昨年は長狭部会の小中一貫校を中心として，９年間を見通した継続的な指導をめざした授業プランが作られた。また，子ども，教職員，保護者に向けての意識調査も継続して行われてきた。このような中で再確認されてきたことは，ジェンダーにとらわれず「自分らしさ」を大切にし，「互いを尊重し合える生き方」のできる子どもを育てるには，ジェンダー平等教育への継続的な取り組みと地域・保護者や教職員などの子どもを取り巻く大人達の意識改革が必要だということである。今年度は「家事・職業をどう捉え，どう教えていくか」を中心とした授業実践を通して，子どもたち一人一人が性別にとらわれず自分らしさを大切にし，お互いの良さを認め合って助け合い，将来の夢や願いを語り実現できるようになってほしいと考え，本主題を設定した。

２　研究仮説

仮説１　自分らしい生き方や働き方について，発達段階に応じた学習を通し，互いを認め合う活動を設定すれば，自己有用感をもった子どもが育つであろう。

仮説２　授業実践や意識調査を通してジェンダー平等について考える機会を設ければ，職場や地域の意識改革につながるであろう。

３　研究内容

（１）安房地域のジェンダー平等教育に関する教育実践の成果と，これまでの成果を明らかにする。

（２）安房支部嶺南部会の教職員・子ども・保護者にジェンダーについての意識調査を行い，地域や子どもの実態をつかみ、考察する。

（３）鋸南部会，長狭部会の指導案集をもとに，発達段階や地域の実態に合わせた授業実践を男性教職員と共に地域全体で行う。

（４）意識調査の結果を踏まえたジェンダー平等教育に関する啓発活動をする。

４　結論

○子ども・教職員・保護者の意識を知ることができた。また，各学年で意識調査や授業実践を行ったことで，子どもの成長過程により意識が変わっていくことを実感できた。

○授業の中で，ジェンダー平等に対する気づきが見られ，男女に関係なく，自分の良さや夢を持って職業を考えることができた。

●ジェンダー平等に対する意識は，子どもたちへの継続的な指導と，子どもを取り巻く教職員や地域の意識への啓発と，職場や家庭での対話が必要である。

安房支部
南房総市立丸山中学校　川田朝美
南房総市立朝夷小学校　石井督枝